

～教員おすすめ本～

No. 3



建築学部 建築学科
堀口 徹

『S, M, L, XL+ 現代都市をめぐるエッセイ』

レム・コールハース 著
太田佳代子・渡辺佐智江 訳

【先生からのコメント】

私が大学院に進学し、大学院留学準備、設計事務所でのオープンデスク、先輩・同級生・後輩らとチームを組んでの国際設計コンペなど、海外を本格的に意識し始めた頃に『遊星よりの物体 X』（現代：The Thing from Another World）のごとく当時の大学の製図室に出現した銀色の物体。1995年にオランダの建築家レム・コールハースが建築界に投じた、1300ページ、重量約3キロに及ぶ現代都市論のエッセイ集『S, M, L, XL』である。

後頭部を不意に分厚いハードカバーの辞書で殴られたことなんかないのだが、それに匹敵するインパクトを持つこの本というか物体のエッセイのみを抜粋し、いくつかの新しいテキストを追加し、日本語に訳したものを文庫サイズに圧縮したのが『S, M, L, XL+ 現代都市をめぐるエッセイ』である。20世紀はどういう時代だったのかを批判的に総括し、21世紀はどんな時代になるのかを煽情的に問いかける。答えなんて書いてない。でもここに提示された「問い」を共有しながら、国境を超えた都市間競争の時代とも言われる21世紀を生き抜くべく、建築を学ぶ人に限らず都市で生きて行く人は手に取ってみて欲しい。可能なら『S, M, L, XL』そのものも手に取ってみて欲しい。そこに書かれているのは Another World なのか、それとも私たちが暮らす世界そのものなのか。

2016年11月11日
近畿大学中央図書館